

ASEAN 人材育成奨学パートナーズ支援（AHEAD50）
ASEAN 事務局環境課及び ASEAN エネルギーセンター職員招へいの記録
（短期招へい第 8 陣）

1. プログラム概要

【目的・概要】

ASEAN 事務局の環境課及び ASEAN エネルギーセンターから、計 6 名の職員が、8 月 23 日から 29 日にかけて訪日しました。

本訪日プログラムは、持続可能な経済成長のための気候変動対策及び海洋保全をテーマとし、気候・環境分野の日 ASEAN 協力事業の円滑な実施に向けて、特に以下の取組に関する理解の深化を目的として実施されました。

- ・ 気候変動の緩和、適応、透明性向上に関する取組
- ・ 脱炭素と経済成長の同時達成に向けた取組
- ・ 海洋プラスチックごみ対策を含む海洋環境保全の取組

【AHEAD50】

AHEAD50（ASEAN Human Educational Development Scholarship Partners）は、2023 年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年を契機に開始した招へい事業。ASEAN 事務局等の有望な職員に対し、日本の政策・制度・立場等につき学ぶ機会を提供し、人材育成を通じて ASEAN 事務局の強化を図るとともに、日本との円滑な協力を促進することを目的としている。

【参加者】 合計 6 名

ASEAN 事務局環境課 職員 4 名（課長級 1 名、上級職員 1 名、職員 2 名）

ASEAN エネルギーセンター モデリング・政策・計画部 職員 2 名（部長級 1 名、上級職員 1 名）

【訪問地】 東京都、茨城県

【日程】

■ 招へいプログラム：

2026 年 8 月 23 日（日曜日）～8 月 29 日（土曜日）6 泊 7 日

8 月 23 日（日曜日）	成田国際空港より入国
8 月 24 日（月曜日）	【講義・意見交換】環境省、経済産業省
8 月 25 日（火曜日）	【視察】大田清掃工場
	【文化体験】金継ぎ体験
8 月 26 日（水曜日）	【講義・意見交換】国立研究開発法人 国立環境研究所
8 月 27 日（木曜日）	【第 2 回グローバル・ストックテイクに向けた日 ASEAN 協力に関する 東京会合出席】
8 月 28 日（金曜日）	【第 2 回グローバル・ストックテイクに向けた日 ASEAN 協力に関する

東京会合出席】

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

講評：外務省アジア大洋州局地域協力室 林 直樹 室長

8月29日（土曜日）

成田国際空港より出国

2. 記録写真



8月25日【視察】大田清掃工場



8月25日【文化体験】金継ぎ体験



8月26日【講義・意見交換】
国立研究開発法人 国立環境研究所



8月26日【講義・意見交換】
国立研究開発法人 国立環境研究所



8月28日【報告会】



8月28日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

- 本プログラムで最も印象に残り、有益だったのは、日本の環境政策、技術、制度上の取り組みについて直接学ぶ機会が得られたことに加え、日本の政府機関、研究機関、その他の関係者との意見交換が

できたことです。

特に、国立環境研究所（NIES）及び大田清掃工場への訪問は、科学的研究、データ、技術、政策が、どのように具体的な環境対策へとつながっているのかを理解する上で非常に有益でした。

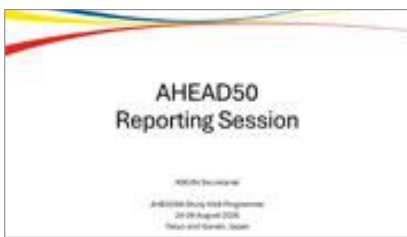
また、特に気候変動、海洋ごみやプラスチックの環境流出、資源循環、廃棄物管理、カーボン市場に関して、ASEAN と日本の間で経験を共有できたことも有意義でした。日本側の関係者と、実務上の課題や今後の協力が期待される分野について議論する機会が得られたことに加え、ASEAN 各加盟国のさまざまな経験から学ぶことができた点も有益でした。

本プログラムを通じて、ASEAN と日本の環境・気候分野における協力を推進する上で、実務者同士の学び合い、能力強化、そしてそれぞれの状況に応じたアプローチの重要性を改めて認識しました。

- 最も印象に残ったのは、第2回グローバル・ストックテイク（GST）に向けた会議でした。現在の私の担当業務は主に越境煙害、生物多様性、海洋問題に重点を置いているため、これまであまり馴染みのなかった気候、エネルギー、脱炭素について多くのことを学びました。特に興味深かったのは、これらの課題が互いに密接につながっており、分野横断的な性質を持っているという点です。エネルギーや脱炭素は、私の通常の業務に直接含まれるものではありませんが、今回の議論を通じて、それらが煙害、生物多様性、その他の環境問題とどのように交わり得るのかを知ることができました。これにより視野が広がり、日々の業務に取り組む上で、新たな視点を得ることができました。

もう一つ興味深かったのは、大田清掃工場への訪問です。焼却施設が一般的にどのように運営されているかについては知識がありましたが、実際に訪問した経験はこれまで数えるほどしかありませんでした。興味深いことに、参加者同士の何気ない会話の中で、東南アジア、とりわけインドネシアは、廃棄物管理の面で日本と比べて大きく遅れている、という話題が上がりました。日本では1990年代後半までにはすでに複数の焼却施設を運営していた一方、インドネシアでは2026年になってようやく、いくつかの焼却施設の整備計画が始まったところです。印象に残る訪問であり、改めて考えさせられる機会にもなりました。

4. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

ASEAN 事務局環境課		
		
【成果の発表】 ◆ プログラムの学び 日本の環境政策においては、政策、データ、科学及び技術を統合するとともに、政府、研究機関及び民間企業が連携して取り組むことの重要性が強調されました。また、技術導入のみならず、制度整備や人材育成を含む実施環境の構築が不可欠であるとの認識を共有することができました。 ◆ 主な学び 気候変動、海洋ごみ、資源循環等の分野において、ASEAN と日本には共通する課題があることを改め		

て認識しました。また、データ整備、MRV（測定・報告・検証）、炭素市場、マイクロプラスチック監視、E-waste（電気電子機器廃棄物）及び ELV（使用済自動車）管理等の分野において、日本の知見や技術を活用した協力の可能性について理解を深めることができました。

【アクション・プラン】

既存の ASEAN・日本間の環境協力を継続するとともに、ASEAN-日本 GST レポート、JCM（二国間クレジット制度）・炭素市場、AIM（アジア太平洋統合評価モデル）、GOSAT（温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」）、海洋プラスチック及び循環経済等の分野における具体的な協力の可能性について検討を進めます。また、今後開催される ASEAN 関連会合や COP31 等の機会も活用しながら、関係機関との連携を一層深化させていきます。

ASEAN エネルギーセンターモデリング・政策・計画部



【成果の発表】

◆ プログラムの学び

本プログラムを通じて、気候変動対策は単独の技術やプロジェクトによって実現されるものではなく、政策、制度、データ、科学、インフラ、資金及び地域協力を総合的かつ一体的に推進することが重要であることを確認することができました。特に、エネルギー安全保障の確保と脱炭素化の推進を同時に実現するという視点の重要性について理解を深めることができました。

◆ 主な学び

ASEAN においては、再生可能エネルギーの導入、電化の推進、エネルギー効率の向上及び域内電力連系の強化に加え、排出量データ、MRV（測定・報告・検証）、衛星観測及びモデリングを連携させることの重要性を認識しました。また、レジリエンスの強化や循環経済の考え方をエネルギー政策に組み込む必要性についても理解を深めることができました。

【アクション・プラン】

今後は、ASEAN-日本 GST レポートに掲載する事例の絞り込みを行い、各事例について課題、成功要因、障壁、成果及び他国への展開可能性を明確にしていきます。また、定量データの妥当性を確認するとともに、ASEAN として発信すべきメッセージを整理し、具体的な実施につながる協力へと発展させていきます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）